

珊瑚礁からの贈りもの「琉球石灰岩」

糸満市立米須小学校

2年 金城 日向

1. 目的、動機

鉱山を経営する父の影響で幼い時から琉球石灰岩が身近にありました。

沖縄の海はなぜなにも綺麗なんでしょう。琉球石灰岩はどうやってできているのだろう。



大度海岸にて

2. 方法、内容

最初に珊瑚の特徴を図書館などで調べてみる。

珊瑚の誕生から育っていく様子、白化現象、そして長い年月をかけて琉球石灰岩になるまでを調べた。

- ① 珊瑚を人の手で育てている「サンゴ畑」に行き、スタッフの人から珊瑚の産卵の様子や大きくなっていく様子を細かく教えてもらいました。
- ② 家の近くの大度海岸、新原ビーチの珊瑚のかけらを拾ってみた。
- ③ ちゅら島財団の方から本などで説明してもらい、嘉陽海岸へ行って珊瑚、貝その他石の話しを聞いてみました。
- ④ 玉泉洞へ行って鍾乳洞の鍾乳石を間近でみて実際に触れてみた。

⑤ 琉球石灰岩が使われている家や、観光名所、加工して利用されている場所を探してみた。

3. 結果

琉球石灰岩は珊瑚が命を終えて長い月日をかけてできたもの。

石とは違って水はけがよいので水がたまりにくい。石に穴があるためです。それは海の中にいた時に小さな生き物がその穴に住んでいたことが分かりました。

琉球石灰岩をよく見ると、小さい穴や貝のような形のあとなどがありました。

鉾山には色は白くてキラキラして宝石みたいなものもあります。とてもきれいです。

それを人の手で加工し、色々な場所で利用されている。

4. 考察

珊瑚礁は海の中にいる生き物です。

一年に一度卵を産んで、岩などにくっつき成長します。そして自分の体に(植物プランクトン)小さな生き物を住ませて、それをエネルギーとして昼間は太陽の光などで大きくなっていくことが分かりました。

夜はイソギンチャクやクラゲのように自分でプランクトンを捕まえて食べています。

珊瑚を食べる魚。珊瑚礁を棲かとする魚。珊瑚から栄養をもらって生活しているもずくや沿岸の小さな生き物たち。珊瑚は海の生物に棲み場所と食べ物をあげています。

また、珊瑚礁は台風や高波などの災害には自然の防波堤になります。

この研究で海に行ったり、写真をとったり、水族館に行ったりしたことが楽しかったです。

琉球石灰岩のことが少し詳しくなったことが嬉しかったです。

そして感動したことは珊瑚礁はあらゆる生物に生きる力を与え続け、そして命を終えて琉球石灰岩となってもその地上で木々や草花の土台となったり、きれいに色々な形なって使われていて人々の生活でとても喜ばれているとてもすごい生き物です。

5. 次に調べたいこと

珊瑚の中にいた生物が何か調べてみたい。

珊瑚礁のまわりで泳いでいる魚は何か。

珊瑚礁を守るためにできる事はあるか。

沖縄の海はいつまでもきれいでいてほしい。

琉球石灰岩の特徴を活かしてほかに利用できるものはないか調べたい。

